日本古生物学会　第１６８回例会

2019年1月25日（金）～1月27日（日）

神奈川県立生命の星・地球博物館

＊＊＊＊＊＊＊＊＊1．プログラム　概要　＊＊＊＊＊＊＊＊＊

1 月 25 日（金）会場：神奈川県立生命の星・地球博物館

【13:00-17:00】　シンポジウム「絶滅生物が生きていた当時の姿を復元するための挑戦と課題　～現在は過去を解く鍵～」・・・・・・・・・・・・・・・・ii
【18:00-20:00】　懇親会（鈴廣かまぼこの里）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・iii

1 月 26 日（土）会場：神奈川県立生命の星・地球博物館　A-C 会場，ポスター会場

【 9:15-10:15】　学術賞受賞記念特別講演（A 会場）・・・・・・・・・・・・・・・iii
【10:30-11:45】　一般講演　口頭発表 1（A-C 会場）・・・・・・・・・・・・・・iii-iv
【13:00-14:00】　一般講演　ポスター発表コアタイム（ポスター会場）・・・・・iv-vi
【14:15-15:30】　一般講演　口頭発表 2（A-C 会場）・・・・・・・・・・・・・・vi-vii
【15:45-17:00】　一般講演　口頭発表 3（A-C 会場）・・・・・・・・・・・・・vii-viii
【17:15-17:30】　ポスター賞表彰式（ポスター会場付近）・・・・・・・・・・・ viii
【17:30-19:30】　夜間小集会（B 会場）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・viii-ix

1 月 27 日（日）会場：神奈川県立生命の星・地球博物館　A，B 会場

【 9:15-10:15】　一般講演　口頭発表 4（A，B 会場）・・・・・・・・・・・・・・・ ix
【10:30-11:30】　一般講演　口頭発表 5（A 会場）・・・・・・・・・・・・・・・・ix-x
【12:30-13:15】　普及講演会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・x
【13:15-14:00】　ギャラリートーク&バックヤードツアー・・・・・・・・・・・・・ x
【13:30-16:30】　化石友の会イベント ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ xi

発表方法と機器についての注意事項など（必ずお読みください）　・・・・・・・・・xii
その他会場案内など・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・xiii-xvi

第１６８回例会参加費：一般会員 6,000 円　学生会員 2,000 円　友の会会員 1,000 円
一般非会員 7,000 円　学生非会員 3,000 円　高校生以下無料（予稿集は有料，1 冊 500 円）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊ 2.プログラム 詳 細 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊

1月25日（金）

【13:00-17:00】神奈川県立生命の星・地球博物館　Ａ会場

シンポジウム「絶滅生物が生きていた当時の姿を復元するための挑戦と課題～現在は過去を解く鍵～」

コンビナー：大島光春・松本涼子・佐藤武宏（神奈川県立生命の星・地球博物館）

絶滅した生物の姿を復元することは，古生物学の主要な目的であるとともに，多くの人々の知的好奇心を喚起する.しかし，古生物の生理や生態、行動などは直接観測できないため，それらの正確な復元は容易ではない.近年，より合理的な復元を行うため，近縁な現生生物の形態・生理・生態・行動などの詳細な研究が進められ，その結果として従来の復元が見直されるケースが相次いでいる.そうした研究成果を伝える上で，復元図などによる視覚表現は効果的で不可欠であり，そのような復元図や復元映像を製作する際には，様々な研究成果を総合し，最新の技術により，適切に視覚化する必要がある.博物館は，現生生物と古生物の資料を研究・収蔵すると同時に，展示を通じて研究成果を普及する役割を持つため，復元のための基礎研究と復元結果の視覚化との間の行き来が容易な場である.本シンポジウムでは，古生物の生理・生態・行動の復元に関する最新の研究成果を紹介し，そうした成果を忠実かつ効果的に視覚化する表現者からの話題も提供する.それらを踏まえ，科学の成果と意義を伝える上での課題や博物館の役割についても議論する.

進行：松本涼子（神奈川県立生命の星・地球博物館）

13:00-13:10 趣旨説明　佐藤武宏（神奈川県立生命の星・地球博物館）

13:10-13:40 **生痕化石から復元する古生物の生態：行動と分布様式**
清家弘治（産業技術総合研究所）

13:40-14:10 **安定同位体比が明らかにする古生物の生態**　加藤萌（名古屋大学）

14:10-14:20 休憩

14:20-14:50 **恐竜とその半径3 メートルの復元　～巣作り現場を中心に～**
田中康平（名古屋大学）

14:50-15:20 **現生動物を調べることで見えてきた“ わからない”こと：鳥類の脳・内耳形態を例に**　河部壮一郎（福井県立大学）

15:20-15:50 **「古生物復元画の実際」～見えなくなった生物を可視化する世界～**
伊藤丙雄（東京工科大学）

15:50-16:05 休憩

16:05-16:20 コメント　大島光春（神奈川県立生命の星・地球博物館）
松岡敬二（豊橋市自然史博物館）

16:30-17:00 総合討論

【18:00–20:00】　懇親会（鈴廣かまぼこの里）

懇親会は予約制です．参加を希望される方は，必ず事前にメールかハガキで，**1月13日（日）［必着］**までにお申し込み下さい．

会　場：鈴廣かまぼこの里　すずなり市場 2 階「鈴の音ホール」
〒250-0032　小田原市風祭 245　https://www.kamaboko.com/sato/
最寄り駅：箱根登山鉄道「風祭」駅　下車徒歩すぐ
移　動：博物館（第 2 駐車場）から懇親会会場までの無料送迎バスは，56 名までご利用になれます．バスを利用される場合はお申込の際に「送迎バス利用」と明記して下さい．バスの申込数が定員を超えた場合，先着順になりますのでご了承ください．博物館から懇親会会場へは箱根登山鉄道（小田原方面）で 1 駅です．徒歩の場合，博物館から約 15 分となります．
会　費：一般会員・非会員・友の会会員　6,000 円，学生　4,000 円
申込先：松本涼子（神奈川県立生命の星・地球博物館）
メール：psj2019odawara@gmail.com
＊件名に必ず**会員の種別（一般・友の会・非会員・学生）を明記**して下さい。
ハガキ：〒250-0031　小田原市入生田 499 神奈川県立生命の星・地球博物館
松本涼子　宛

1月26日（土）神奈川県立生命の星・地球博物館

【9:15–10:15】学術賞受賞記念特別講演（A 会場）

對比地孝亘
「恐竜類を中心とした双弓類爬虫類の比較形態学的研究」

【10:15–10:30】休 憩

【10:30–11:45】一般講演 口頭発表 1（A–C 会場）

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎動物学の部（1） **座長:對比地孝亘**	**形態解析の部** **座長:佐藤圭**	**生層序学の部** **座長:伊藤剛**
A01 w 三井翔太・樽創・大江文雄・Carlos Augusto Strüssmann　神奈川県三浦市の中部更新統・宮田累層から産出した魚類化石に基づく古環境推定	B01 w 日比野琴音・桂木洋光・佐々木猛智・藤原慎一　下方引張実験による二枚貝の殻形態の生息姿勢制御機構の検証	C01 w 歌川史哲・上松佐知子・指田勝男　福島県いわき市の古第三系石城層礫岩より産出した三畳紀微化石群集について

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎動物学の部 (1) 座長:對比地孝亘	形態解析の部 座長:佐藤圭	生層序学の部 座長:伊藤剛
A02 w 猿渡敏郎・籔本美孝・岩田雅光・Frensly D. Hukom・Dirhamsyah・Teguh Peristiwady・Augy Syahailatua・Zainal Arifin・安部義孝　*Latimeria* 属の分類学的再検討に向けた第一歩　インドネシアシーラカンス *Latimeria menadoensis* の精密計測	B02 w 石原大亮　後期白亜紀笠型貝類 *Anisomyon transformis* の擬肋形成説の検証	C02 w 松岡篤・LI Xin・CHIARI Marco・BERTINELLI Angela Bosso Valley セクション（イタリア中部）ー ジュラ・白亜系境界 GSSP の有力候補
A03 m 平山廉・鵜野光・大倉正敏・滝沢利夫　久慈層群玉川層（後期白亜紀）から産出した大型スッポン科	B03 w 生形貴男　外殻性頭足類の静水力学的形状特性と流体力学的形状特性の間の相反関係：生息姿勢を考慮した場合	C03 w 宇都宮正志・萩野恭子・田中裕一郎　ODP Site 709（西インド洋赤道域）における円石藻 *Umbilicosphaera sibogae* の出現と推定される祖先種
A04 w 河部壮一郎・薗田哲平・平山廉　絶滅ウミガメ上科 *Santanachelys gaffneyi* の神経解剖学的研究	B04 m 古居晴菜・生形貴男 アンモナイトにおける縫合線長と殻体積のアロメトリー	C04 w 鈴木紀毅・新生代放散虫属標準化検討メンバー　新生代放散虫の全属の生存期間の見積
A05 w 久保泰　系統図から生物地理ネットワークを構築する新手法：白亜紀の陸棲四肢動物への適用	B05 w 赤坂実優・椎野勇太 腕足動物 *Eoplectodonta* の 3 次元形態解析から読み解く成長戦略	

【11:45–13:00】休 憩

【13:00–14:00】一般講演 ポスター発表
(奇数番号コアタイム 13:00–13:30　偶数番号コアタイム 13:30–14:00)

P01 有元純・高嶋礼詩・西弘嗣・山中寿朗・折橋裕二・條将太・山本鋼志・梅津慶太　上部白亜系久慈層群における炭素同位体比・U–Pb 放射年代統合層序を用いた地質年代決定
P02 山本有夏・北村晃寿・久保篤史・山田和芳・豊福高志　活動縁辺域の沿岸泥地における堆積環境の同定のための古生物学的・地球化学的指標の検討
P03 尾﨑薫・守屋和佳・本山功　北海道穂別地域における中新世有孔虫化石群組成
P04 前田歩・吉村寿紘・荒岡大輔・鈴木淳・為則雄祐・藤田和彦・豊福高志・大河内直彦・川幡穂高　大型底生有孔虫の Mg 同位体比と代替指標としての可能性
P05 藤井麻緒・堀利栄・大藤弘明・仲村康秀　放散虫類アカンタリア目骨格成分の元素分析
P06 伊藤剛　ペルム紀放散虫 *Longtanella* 属の分類学的再検討
P07 佐々木綾香・岡本隆・塚腰実　中新統久万層群産明神植物群の特徴と変遷
P08 増永正大・椎野勇太　腕足動物ディスキナ類のもつ環境適応特性
P09 安里開士・加瀬友喜　岐阜県大垣市のペルム系赤坂石灰岩から産する巨大軟体動物化石群：その現状と課題

P10 湯口博満・安藤寿男　北海道中南部の中新統フラヌイ層における自生－半自生産状を示す *Crassostrea gravitesta* 密集層のタフォノミーと古生態
P11 中山健太朗・近藤康生　日本産ニシキウズガイ科腹足類 *Umbonium* 属の主要 2 系統の進化に伴う生態変化
P12 横山紀樹・近藤康生　鮮新統穴内層から産出する 2 種のバカガイ属二枚貝：シオフキおよびバカガイ祖先種の可能性
P13 太田未来・延原尊美・土井佑太・杉村誠・長井裕季子・豊福高志・岩瀬良一　シロウリガイ類の行動様式と足の特徴の関係
P14 佐藤英明・佐々木猛智　軟体動物の貝殻模様の 3 次元分布を再現するパターン形成モデル
P15 中村千佳子・岡本隆　北海道産後期白亜紀アンモナイト *Scaphites* の集団解析
P16 髙橋美有・岡本隆　異常巻アンモナイト *Polyptychoceras* のより詳細な成長ルールの解明
P17 髙井芙樹・川端優来・市来怜也・串崎亮・加瀬友喜・重田康成　オウムガイの死後浮遊時における太陽光の影響
P18 小沢広和　富山県・八尾層群（前～中期中新世）産浅海および漸深海生オストラコーダ化石群と産出意義
P19 柄沢宏明・岸本眞五・小原正顕・安藤佑介　和泉層群の後期白亜紀十脚類
P20 清水秀倫・西田梢・石村豊穂・並木勇樹・間嶋隆一　中部更新統上総層群柿ノ木台層に産出するスナモグリ類の巣穴周辺に沈殿した冷湧水性自生炭酸塩の形成過程
P21 籔本美孝・岩田雅光・猿渡敏郎・Frensly D. Hukom・Dirhamsyah・Teguh Peristiwady・Augy Syahailatua・Zainal Arifin・安部義孝　インドネシアシーラカンス *Latimeria menadoensis* の骨学的研究ならびに現生シーラカンスの起源について
P22 水上綾乃・松本涼子・和仁良二　石川県白山市の下部白亜系手取層群桑島層より産出したカエル類の化石について
P23 福原洸・佐藤光暁・William Sellers・石黒章夫　制御の視座から紐解く首長竜の適応的な遊泳様式
P24 吉田純輝・堀睦・小林快次　舌骨の解剖・形態から探るワニ類の水生適応の初期進化
P25 小布施彰太・柴田正輝　福井県勝山市の手取層群北谷層より産出するワニ形類
P26 柴田正輝・宮田和周・中谷大輔　長崎県長崎市の鳥脚類恐竜の予察的研究
P27 坂上莉奈・河部壮一郎　脳・内耳形態に基づく角竜類 *Triceratops* の生態の解明
P28 田部智大・石垣忍　鳥脚類の足先が内旋する原因
P29 寺田智也・Khishigjav Tsogtbaatar・坂田周平・青木一勝・実吉玄貴　モンゴル国ゴビ砂漠東部に分布する上部白亜系 Bayanshiree 層の堆積環境と砕屑性ジルコン年代測定
P30 池上直樹・村上浩二　八代山地下部白亜系川口層から産出した恐竜化石
P31 花井智也・岩見恭子・富田直樹・對比地孝亘　青森県蕪島で繁殖するウミネコにおける頭骨成長の解析
P32 永井悠太郎・大野剛・坂田周平・鵜野光・平山簾　新たな古脊椎動物の食性復元法：アパタイトの Mg・Sr 安定同位体比を用いた新手法
P33 久保麦野・山田英佑・藤田祐樹　三次元マイクロウェア形状解析による更新世化石シカの食性推定
P34 仲井大智・藤原慎一　哺乳類の前肢を用いた掘削能力及び掘削方法を反映する形態指標
P35 半田直人・仲谷英夫・國松豊・三枝春生　タイ北部 Chiang Muan 炭鉱から産出した中新世サイ科およびカリコテリウム科（奇蹄目）化石
P36 富谷進・Julie Meachen 北米における第四紀後期のタイリクオオカミ体肢骨の形態的変異
P37 加藤敬史　漸新統佐世保層群からリス科化石の産出
P38 堀智彦　タマリン属(霊長目オマキザル科)の上顎大臼歯における hypocone 状咬頭とそこに形成される wear の比較検討
P39 鍔本武久　ニホンザルの距骨・踵骨のサイズ変異：化石研究への示唆
P40 村上瑞季・嶋田智恵子・疋田吉識　北海道遠別町の声問層から産出したネズミイルカ類の新標本

P41 安藤佑介・木村敏之・小田隆・府高航平・瀬尾和宏　中新統産ヒゲクジラ類 *Isanacetus* 属の復元と瑞浪市化石博物館の展示への活用
P42 新村龍也・一島啓人　羽幌産ハクジラ化石の復元 3D CG 制作―遠隔連携の一例と復元における 3D CG の有効性―
P43 相場大佑・唐沢與希・上口壮太・重松百之香　アンモナイトをモチーフにしたキャラクター「あんもふれんず」：その制作と博物館活動への適用，商品開発
P44 黒須弘美・廣瀬浩司・鵜飼宏明・長谷義隆・香取祥人　化石採集体験を通した寄贈標本の学術的利用
P45 一田昌宏・加藤千茶子・吉川博章・安井謙介　豊橋市自然史博物館における標本作製作業展示と連携する化石を用いたアウトリーチ活動

高校生ポスターセッション

HP1 大西直子・小石悠真・中橋真幸・山辺茉衣子　焼成された珪藻土における間隙の体積について
HP2 原田伊織・平野真梨奈　暁新世野田層群港層から産出したカツラ科材化石について
HP3 小林哉太　世界最小級の甲殻類 間隙性貝形虫⁉その生態にせまる！～貝形虫と潮汐・水温の関係性についての研究～
HP4 吉田恩・鈴木涼太　鳥類の進化における尻尾と骨盤の関係

【14:00–14:15】休 憩

【14:15–15:30】一般講演 口頭発表 2（A–C 会場）

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎動物学の部 (2) **座長:久保泰**	**古生態学の部 (1)** **座長:椎野勇太**	**古植物学の部** **座長:ルグラン ジュリアン**
A06 m 松岡晃史・中村昌彦・望月直・西弘嗣　長頸竜類のヒレによる水中滑空制御	B06 w 大路樹生　エディアカラ紀の古生物学の進展：モンゴルの研究例から	C05 m Harufumi Nishida・Luis Miguel Sender A new Cyathealean tree-fern stem from the Late Cretaceous of Obira (Hokkaido, Japan)
A07 m 吉田純輝・堀睦・小林快次・高桑祐司・長谷川善和　ゴニオフォリス類新標本の分類学的研究と北米における多様性	B07 w 小松俊文・重田康成・真鍋真・フン ザン ディン・對比地孝亘・楠橋直・ルグラン ジュリアン　ベトナムニンビン省に分布する上部三畳系ソイバン層の堆積環境と二枚貝化石群	C06 w 武部友亮・西田治文・山田敏弘　蝦夷層群産薄嚢シダ類コバノイシカグマ科の胞子葉化石の新発見
A08 w 飯島正也・小林快次　新生代後期の東アジアの長吻ワニとガビアル-トミストマ問題	B08 w 笠原慎平・ジェンキンズロバート・山田敏弘・蜂矢喜一郎・松岡廣繁　手取層群有峰層（上部ジュラ系）産脊椎動物化石群集の竜骨群集の可能性	C07 w 西田ちづる・西田治文・山田敏弘・寺田和雄・矢部淳・Luis Felipe Hinojosa・Julien Legrand・Patricio Lopez-Sepulveda・朝川毅守　チリ南部コチョルゲ産後期白亜紀（マーストリヒチアン）のヒノキ科コウヨウザン亜科シュート鉱化化石

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎動物学の部 (2) 座長:久保泰	古生態学の部 (1) 座長:椎野勇太	古植物学の部 座長:ルグラン ジュリアン
A09 w Elena Cuesta *Concavenator corcovatus* (Theropoda, Lower Cretaceous, Spain): A diagnostic revision	B09 w 佐藤圭・ジェンキンズロバート 白亜紀オサガメ類 *Mesodermochelys* に共生する穿孔性二枚貝類	C08 m 矢部淳・植田弥生 日本産第四紀大型植物化石データベースの公開ー今後の活用に向けて
A10 w 渡辺順也・小泉明裕・中川良平・高橋啓一・田中猛・松岡廣繁 更新統上総層群・下総層群から産出した海鳥化石群	B10 w 鈴木碧・ジェンキンズロバート・小木曽正造・鈴木信雄 九十九湾に設置した生物遺骸に生息する多毛類の分類と食性	

【15:30-15:45】休 憩

【15:45-17:00】一般講演 口頭発表 3 (A-C 会場)

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎動物学の部 (3) 座長:西岡佑一郎	古環境学の部 (1) 座長:黒柳あずみ	古生態学・分類学の部 座長:佐々木猛智
A11 m 犬塚則久・吉田健一・澤村寛 哺乳類大腿骨の比較機能形態学的解析	B11 m 延原尊美・大高歩美・徳田悠希・池原研 東海沖深海底の貝類およびサンゴ類遺骸の AMS^{14}C 年代	C09 w 井ノ上歩実・佐藤慎一・上原陽平・小泉康二 浜名湖における大型底生動物の分布パターンとその季節変化に関する研究
A12 m 衣笠哲也・石垣忍・伊東和輝・藤本大樹・林良太・吉田浩治 旋回する四足歩行動物の行跡に見る軌道差と動力学モデル解析	B12 w 浅海竜司・松森建人・石原信司・金城章・大城大輝・成瀬貫・水山克・植村立・新城竜一・伊勢優史・藤田喜久・坂巻隆史 硬骨海綿の古海洋環境プロキシとしての有用性	C10 w 松島義章・鎮西清高 完新世貝類群集に見られる温暖種の時空分布～黒潮と対馬海流の動きを探る～
A13 w 北川博道 埼玉県秩父地域から２番目に発見されたパレオパラドキシア化石について	B13 m 本堂陸斗・浅海竜司・植村立・新城竜一・狩野彰宏・藤田祐樹・山崎真治・高柳栄子・井龍康文 沖縄島洞穴遺跡産の淡水棲貝化石による更新世後期の古環境復元	C11 w 福嶋徹 東京都日野市上総層群連光寺層から産出した遊泳性甲殻類化石ワタリガニ科ガザミとワタリガニ科未定種

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎動物学の部（3） **座長:西岡佑一郎**	**古環境学の部（1）** **座長:黒柳あずみ**	**古生態学･分類学の部** **座長:佐々木猛智**
A14 w 都竹菜穂子・甲能直樹 日本の更新統から知られるアシカ科大型鰭脚類の下顎骨化石に基づく計測形態学的再検討	B14 m 池田昌之・尾崎和海 顕生累代の地質時代境界の生物群集変化と天文周期の炭素循環変動	C12 m 松原尚志・佐野勇人・細田栄作・井上恵介・冨田進 伊豆半島松崎地域の中新統湯ヶ島層群からのエンマノツノガイ属（腹足綱：エンマノツノガイ科）の発見とその意義
A15 w 岡本奈緒美・甲能直樹 宮城県の下部鮮新統竜の口層から産出したセイウチ科鰭脚類化石	B15 m 石野沙季・加藤悠爾・須藤斎　珪藻化石群集の緯度的変化に基づく南大洋の中期－後期鮮新世海氷変動史	C13 m 長森英明・吉川博章 鮮新世のハマグリ属の分布と形態

【17:00–17:15】休 憩

【17:15–17:30】ポスター賞表彰式（ポスター会場付近）

【17:30–19:30】夜間小集会
若手のための会主催「博物館を学ぶ」（B 会場）

世話人：髙津翔平（岐阜県博物館）

趣　旨：博物館は自然科学をはじめとする様々な標本・資料を収集し，保管・管理し，展示して教育普及的配慮のもと公開していく重要な役目を担っている．それと同時に，これら資料に関する調査・研究を行うことを目的とする機関でもある．古生物学を扱う分野においても，博物館とその管理下にある標本・資料を利用して研究を行う機会は多く，標本・資料の扱い方や，各博物館や研究機関における手続きや振る舞いは多岐にわたっている．

本夜間小集会の前半は，神奈川県立生命の星・地球博物館のバックヤード見学を通して，博物館の収蔵庫問題や自然史博物館の在り方や課題等々，博物館管理について学ぶ．後半は B 会場において，パネルディスカッション形式で参加者からの質問や博物館が抱える諸問題について議論することを目的とする．

※夜間小集会前半のバックヤード見学は事前申込（定員 40 名）となります．後半のパネルディスカッションは参加自由です．

バックヤード案内: 佐藤武宏・松本涼子・樽創（神奈川県立生命の星・地球博物館）

講演: 安藤佑介（瑞浪市化石博物館）

パネリスト: 安藤佑介（瑞浪市化石博物館）・北川博道（埼玉県立自然の博物館）・
黒須弘美（御所浦白亜紀資料館）・高桒祐司（群馬県立自然史博物館）・
宮田真也（城西大学 大石化石ギャラリー）

1月27日（日）神奈川県立生命の星・地球博物館

【9:15–10:15】一般講演 口頭発表 4（A,B 会場）

A 会場	B 会場
古脊椎動物学の部（4） **座長:久保麦野**	**古環境学の部（2）** **座長:浅海竜司**
A16 w 宮田和周・長田充弘・平田岳史・仁木創太・服部健太郎・大藤茂 日本最古の新生代陸棲哺乳類化石群集の年代学的意義	B16 m 黒柳あずみ・豊福高志・長井裕季子・木元克典・西弘嗣・高嶋礼詩・川幡穂高 浮遊性有孔虫記録を基にした白亜紀無酸素事変時の海洋環境推定
A17 m 西岡佑一郎・冨田幸光 岐阜県可児市土田の瑞浪層群中村層（前期中新世）より産出したラゴメリクス類（シカ科）化石	B17 w 木元克典・山口篤・大村貴光 LA-ICP-MS による有殻翼足類殻の Sr/Ca 分析
A18 m 甲能直樹・江木直子・冨田幸光 岐阜県の下部中新統中村層から産出した *Potamotherium*（食肉目）の古生物地理的意義	B18 w 木下峻一・Johann Hohenegger・佐々木理・黒柳あずみ・高嶋礼詩・西弘嗣 マイクロ X 線 CT 計測による自然環境下における大型底生有孔虫の成長速度と生殖状況の解明
A19 w 三枝春生・高井正成・タウン・タイ・ジン・マウン・マウン・テイン・西岡佑一郎 ミャンマーのテトラロフォドン類について	

【10:15–10:30】休 憩

【10:30–11:30】一般講演 口頭発表 5（A会場）

A 会場
古脊椎動物学の部（5） 座長:半田直人
A20 m 高井正成・河野礼子・タウン・タイ・ジン・マウン・マウン・テイン・楠橋直　ミャンマー中部で見つかった後期中新世初頭のホミノイド化石
A21 w 村上達郎・樽創・鍔本武久　神奈川県に分布する鮮新統中津層群から産出したサイ科の有鉤骨化石の再検討
A22 w 河村善也・齊藤毅・河村愛・張鈞翔・岩嵜広大・三田村宗樹・百原新　台湾で最も重要な第四紀哺乳類化石産地である台南市菜寮地域での地質・古生物研究の現状と展望
A23 w 高橋亮雄・中西希・波木基真・仲座久宜・伊澤雅子・太田英利　石垣島白保竿根田原洞穴遺跡より発見されたネコ類化石の分類学的位置づけとその動物地理学的意義

【12:30-13:15】普及講演会

「砂漠に眠るクジラたち―インカクジラの語ること―」

・講師：甲能直樹（国立科学博物館生命進化史研究グループ長）

・会場：神奈川県立生命の星・地球博物館 SEISAミュージアムシアター

（最寄駅：箱根登山鉄道入生田駅）

・定員：270名（申し込み不要）（12:15開場予定）

【13:15～14:00】ギャラリートーク＆バックヤードツアー

・内容：普及講演会の後，展示室移動して，展示されているインカクジラの標本を見ながらインカクジラの命名者の一人である甲能博士による解説を受けます．その後，神奈川県立生命の星・地球博物館の学芸員の引率で，収蔵庫等のバックヤードを見学し，博物館で化石がどのように収蔵・配架されているかを学びます．

・ギャラリートーク講師：甲能直樹（国立科学博物館生命進化史研究グループ長）

・バックヤードツアーコンダクター：神奈川県立生命の星・地球博物館学芸員

・会場：神奈川県立生命の星・地球博物館 生命展示室・収蔵庫

（最寄駅：箱根登山鉄道入生田駅）

・対象：一般向けの内容です。バックヤードツアーは小中学生でも解るようにお話しします。
・定員：30 名（事前申し込み制）
・申込方法：神奈川県立生命の星・地球博物館ウェブサイトより申込
http://nh.kanagawa-museum.jp/

【13:30-16:30】化石友の会イベント
化石を描こう～サイエンスイラストレーション超入門編～
（3F 実習実験室）

友の会会員向けのイベントとして，最前線で活躍するプロのイラストレーターである菊谷詩子さんに，コンパスや三角定規を利用したシンプルかつ正確なスケッチ法を教えていただくサイエンスイラストレーション講座を開催します．定員を上回る 49 名のお申込みを頂いたため，抽選となりました．

・会場：3 階実習実験室
・受付開始：13:00～
・定員：25 名（申込は終了しました）
・参加費：無料
・講師：菊谷詩子（サイエンスイラストレーター）
・世話人：松本涼子（神奈川県立生命の星・地球博物館）・藤原慎一（名古屋大学）・泉賢太郎（千葉大学）
・問合せ：psj-workshop2019@palaeo-soc-japan.sakura.ne.jp

＊＊＊＊＊３．発表方法及び機器についての注意事項など ＊＊＊＊＊

＜口頭発表をされる方へ＞

【重要！】口頭発表はパソコン等持参です！　貸出用のパソコンは用意していません.

・接続端子は，HDMI か mini D-Sub 15pin の 2 種類のみです．それ以外の端子の場合はご自身で変換アダプタをお持ちください.

・休憩時間などに接続状況を確認してください．接続作業時間も講演時間に含みます.

・プロジェクタ画面は原則として 4:3 の画角になります.

・デュアル・ディスプレイ設定のノートパソコン（普段，外部モニタを接続して併用しているノートパソコン）は，接続前にデュアルモードからシングルモードに切り替えてください.

・パソコン等の操作や接続は，発表者ご自身で行ってください.

・一般公演の口頭発表時間は 15 分間です（質疑応答，使用機器の接続時間を含む）.

＜ポスター発表をされる方へ＞

【重要！】ポスターは横位置です！

・ポスターボードの有効サイズは，横 168cm×縦 112cm です．ボード上端は地上から 210cm，ボード下端は地上から 95cm です．ボードに収まる紙のサイズは，A 判であれば A0（横 118.9cm×縦 84.1cm），B 判であれば B0（横 145.6cm×縦 112cm）になります.

・壁面および床面のコンセントの使用はお断りします.

・ポスターは 1 月 25 日（金）の 13:00 から貼ることができます.

・ポスター掲示用の画鋲は会場で用意します.

・ポスターは 1 月 27 日（日）の 12:30 までに必ずご自身の責任の下で撤収してください.

・ポスターは各自お持ち帰りください．会場での処分はできません.

＜会場および発表方法・機器に関する問い合わせ先＞

開催実行委員：大島光春（oshima(at)nh.kanagawa-museum.jp）
　　佐藤武宏（sato(at)nh.kanagawa-museum.jp）
　　TEL 0465-21-1515（代表）／FAX 0465-23-8846

e-mail のアドレスの「(at)」を「@」に置き換えた上で必ず両名へメールをお送りください．その際は，表題を「psj2019odawara 問い合わせ」としてください.

行事係：遠藤一佳（endo(at)eps.s.u-tokyo.ac.jp）

＜ご来場について＞

・公共交通機関をご利用ください.

・小田原駅から箱根登山鉄道で入生田駅までは約 12 分です．入生田駅から神奈川県立生命の星・地球博物館までは徒歩 3 分です（会場までは 6 分ほどかかります）.

＜企業ブースについて＞

・予定していた出展ブース数を上回りましたので，締め切らせていただきました.

＜懇親会について＞

・本プログラム iii ページをご参照ください．なお，未成年の方は懇親会に参加できません．ただし，保護者同伴の未就学児についてはこの限りではありません.

＜お食事について＞

・B 会場（西側講義室）・C 会場（東側講義室）・休憩室（実習実験室）のみ飲食可能です.

・A 会場（SEISA ミュージアムシアター）での飲食はお断りします.

・博物館 3 階にはレストラン「フォーレ」があります．営業時間は 10:00〜16:00（11:30 までは喫茶のみ；ラストオーダーは 15:30）です．現金のみのご利用になります.

レストランフォーレ：https://www.its-forest.jp/forle.html

・博物館 1 階には喫茶「あーす」があります．営業時間は 10:00〜16:00 です現金のみのご利用になります.

喫茶あーす：http://bit.ly/2CamQ26

＜お弁当について＞

・博物館周辺には飲食店がほとんどありません．徒歩 8 分ほどの場所にコンビニエンスストア「ローソン」がありますが，品揃えには限りがあります．小田原駅近辺でご準備されることをお勧めします.

・1 月 26 日（土）のみ，お弁当の注文を受け付けます．お茶つきで 700 円（税込）です.

・ご希望される方は,

psj2019odawara0126lunchbox(at)gmail.com

のアドレスの「(at)」を「@」に置き換えた上で，メールでお申し込みください．ハガキで申し込まれる方は,

250-0031 神奈川県小田原市入生田 499

神奈川県立生命の星・地球博物館　田口公則

までお申し込みください.
・メールの場合もハガキの場合も締切は 1 月 13 日（日）必着です.

＜喫煙について＞

・博物館内は禁煙です．屋外の所定の喫煙場所をご利用ください.

＜託児所について＞

ご希望される方は，各自ご確認ください.

小田原市内保育所一覧表：http://bit.ly/2CbL4ZO

子育て支援情報サービスかながわ：http://c.rakuraku.or.jp/

＜宿泊について＞

・小田原市内には宿泊施設が少なく，大部分の宿泊施設は全国的な宿泊予約サイトでの予約ができません．各自ご確認ください.

小田原市の観光・宿泊のページ：http://bit.ly/2CcZTeZ

小田原市観光協会「小田原ナビ」宿泊のページ：http://www.odawara-kankou.com/spot/stay/

箱根町観光協会「箱根全山」宿泊のページ：http://bit.ly/2Lg7Z9j

＜盗難について＞

・本学会を含め，学会開催中の盗難が報告されています．貴重品は各自の責任で管理をお願いいたします.

＜写真および動画の撮影について＞

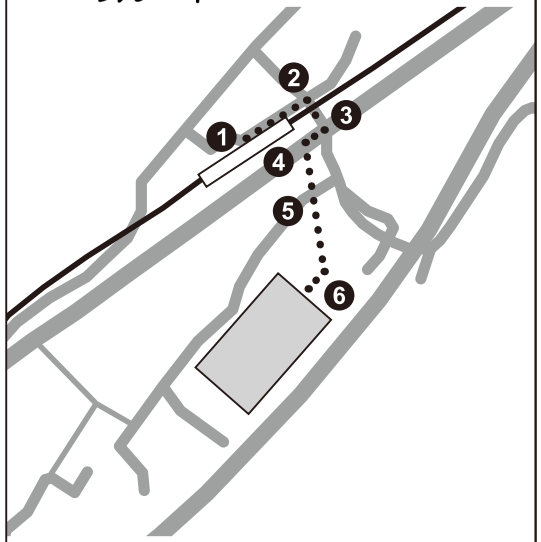
・発表者の許可なく講演およびポスター発表を撮影することを禁止します.

＜博物館の観覧について＞

・学会受付時に，1 月 25 日・26 日・27 日の無料観覧券 3 枚セットをお渡しします．開館時間は 9:00～16:30（展示室への入室は 16:00 まで）です.

・無料観覧券の譲渡および転売はかたくお断りします.

入生田駅から生命の星・地球博物館へのルート



1. 入生田駅を出て正面を右に、線路に沿って進みます。
2. 最初の交差点を右に曲がり、ガードをくぐります。
3. ガードを出たらすぐ右に階段（エレベータあり）があります。
4. 階段（エレベータ）登り、歩道橋に上がります。
5. 歩道橋を渡って国道1号線を越えます。
6. 博物館の前庭を横断し、正面入口から博物館に入館します。

生命の星・地球博物館　周辺マップ

8 長興山枝垂れ桜
樹齢約340年の一本桜。毎年3月末に満開の花を咲かせます。

9 長興山紹太寺
黄檗普茶料理を食べることができます。予約が必要です。

1 博物館3Fレストラン「フォーレ」
団体の場合は予約も受け付けています。

2 博物館1F軽食喫茶「あーす」
ミュージアムショップのそば、小さな喫茶コーナーです。

3 神奈川県温泉地学研究所
箱根火山や地震に関する展示があります。

14 太閤
地魚とおそば、定食などを中心とした和食のお店です。

15 ローソン
コンビニエンスストア。広い駐車場があります。

16

10 魚勝
土産物販売。

11 大木酒店
厳選された日本酒を各種販売しています。

12 盛月堂
甘露梅や茶饅頭など和菓子を販売しています。

13 そうけい珈琲
自家焙煎のコーヒー豆販売。通信販売もやっています。

17 友栄
ミシュランの星を獲得した鰻のお店です。

18 ゆきんこ
サッポロラーメンとチャンポンのお店です。

19 鈴廣かまぼこ博物館
かまぼこ・ちくわの手作り体験ができます。ガラス越しに工場見学も。

20 JA直売
農産物の直売を実施しています。開催は不定期です。

21 鈴廣鈴なり市場
汐風カフェや、複数のイートインスポットでのかまぼこ食べ比べ。

22 千世倭楼
重厚な和風建築の建物で会席やそばを食べることができます。

23 えれんなごっそ
地ビールとランチビュッフェのお店です。

4 箱根乃庵
そば・和食など。そば打ち体験は予約が必要です。

5 本間美術館
寄木細工の展示販売。体験工房でコースターづくりも体験できます。

6 燻製工房 然
地魚を4種類の味付けで燻製に加工。各種詰め合わせもあります。

7 Caffe Aruba
カフェ。ラテアートや猫グッズの販売もしています。

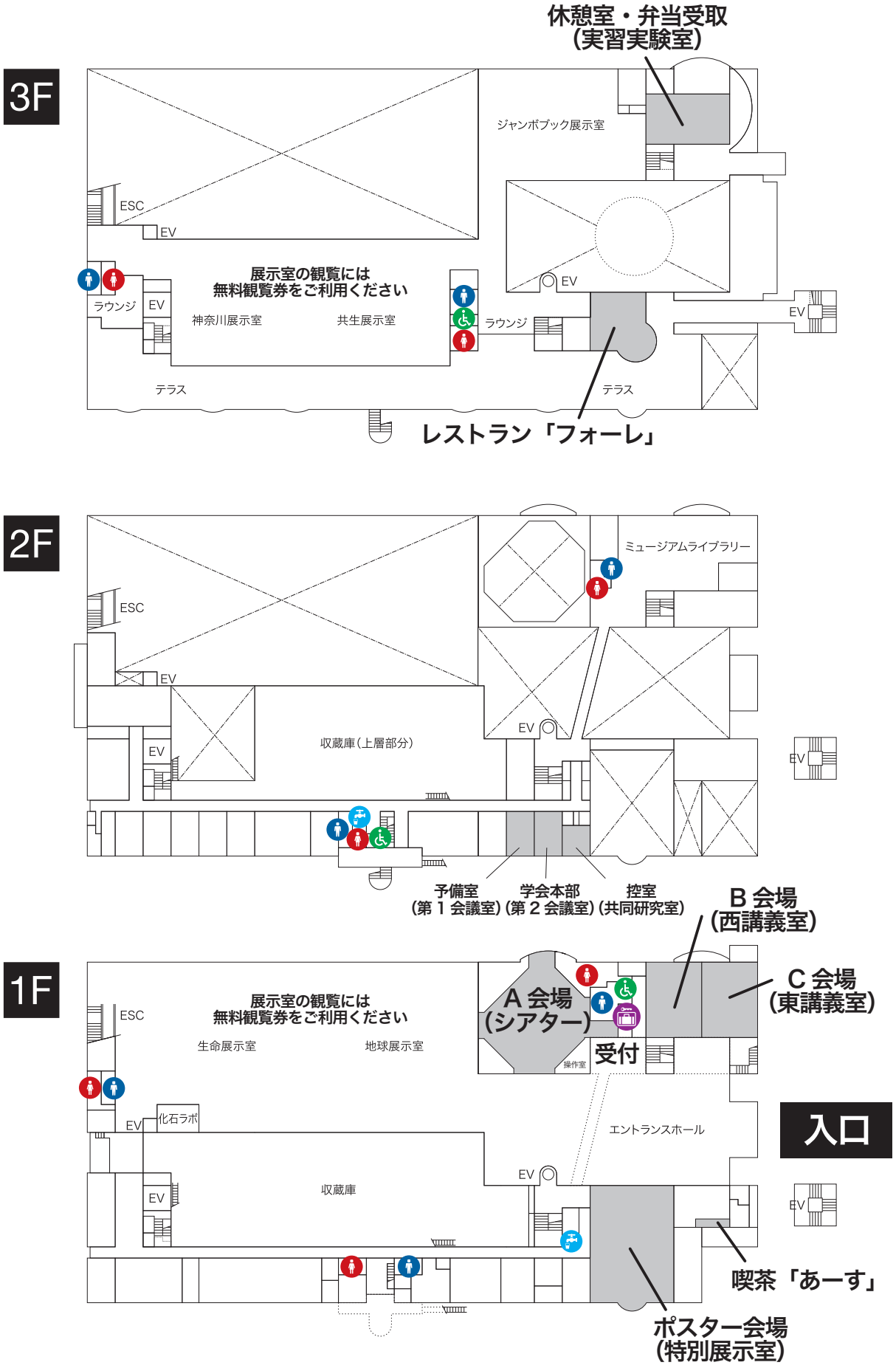
24 自然をたのしむみち
博物館から一夜城まで、のんびりと上り坂を歩きながら自然観察を。

25 史跡石垣山・一夜城歴史公園
秀吉天下統一の最後の戦い、小田原攻めの際に城が築かれました。

26 一夜城ヨロイヅカファーム
レストラン・パティスリー・ブーランジェリーと農産物の直売所です。

2018.12.13.ver 店舗等の情報が変わることがあります。

会場見取図


休憩室・弁当受取
(実習実験室)
3F
ジャンボブック展示室
ESC
EV
展示室の観覧には
無料観覧券をご利用ください
ラウンジ
EV
神奈川展示室
共生展示室
ラウンジ
EV
EV
テラス
テラス
レストラン「フォーレ」
2F
ミュージアムライブラリー
ESC
EV
EV
収蔵庫(上層部分)
EV
EV
予備室
(第１会議室)
学会本部
(第２会議室)
控室
(共同研究室)
B 会場
(西講義室)
1F
展示室の観覧には
無料観覧券をご利用ください
ESC
A 会場
(シアター)
C 会場
(東講義室)
生命展示室
地球展示室
受付
操作室
EV
化石ラボ
エントランスホール
入口
EV
収蔵庫
EV
EV
喫茶「あーす」
ポスター会場
(特別展示室)